

2-⑪ 指導計画の改善（カリキュラムマネジメント）

「南魚沼市のALT・『国際科』を生かした外国語活動・外国語の推進」

南魚沼市立第一上田小学校 南雲 秀彦

1 研究の視点に関する実態

道徳の教科化、外国語活動・外国語の導入、プログラミング教育の導入等、新たなものが導入され、教職員の多忙化に拍車がかかっている。働き方改革が叫ばれている今日、業務量の削減に取り組む必要がある。南魚沼市は、文部科学省の認定を受けて教育課程特例校『国際科』の授業を全国に先駆けて行ってきた外国語活動・外国語の先進地域である。だから、校長として、その『国際科』の実践を生かして南魚沼市が作成した指導計画を活用し、ALTと協力して外国語活動・外国語を推進していく。

2 改善のための具体的な方策と取組内容

(1) 南魚沼市の『国際科』を生かした外国語活動・外国語の指導計画の活用

南魚沼市では、「外国語活動」を第3・4学年の「英語教育」として「Let's Try!」を使用、「外国語」を第5・6学年の「英語教育」として「We Can!」を使用する。指導計画については、市教育委員会を中心にALTが協力し、今までの『国際科』の取組を生かしながら文科省指導計画に手を加え、南魚沼市の「英語教育」指導計画及び活動例、授業に必要な資料等を作成した。当校は、その指導計画等を使って自校化し活用する。時数は次のようになる。

＜平成30・31年度＞	3・4学年	25単位時間	（英語教育20h、国際理解教育5h）
	（移行期間）	5・6学年	55単位時間（英語教育50h、国際理解教育5h）
＜平成32年度以降＞	3・4学年	40単位時間	（英語教育35h、国際理解教育5h）
	5・6学年	75単位時間	（英語教育70h、国際理解教育5h）

「英語教育」の時数については、余剰時数を計算しながら、ある程度のゆとりをもった教育課程が編成できるよう年間の授業日数を段階的に増やすことにした。平成30年度は、夏休みを2日削減し、授業日数を増やした。平成32年度までに夏休みをもう3日削減し、授業日数を増やすことで、「英語教育」の時数を確保していく。

「国際理解教育」は、総合的な学習の時間の計画に位置付け、各学年5単位時間行う。国際大学の留学生や市内在住の人材バンク登録者の協力を受け、様々な国のことを理解するとともに、「英語教育」で学んだことを活用して留学生等と交流実践を図る場とする。

(2) 担任とALTとで行う外国語活動・外国語の授業実践

南魚沼市では「教育課程特例校事業費」を増額し、ALTを増員した。当校では、毎週水曜日と各週金曜日にALTが来校する。ALT勤務における国際科年間授業予定を立て、全ての授業でTT指導ができるよう計画した。事前に打ち合わせを行いTTでの授業を実践する。

当校は、「自信をもって行動する力」を身に付けさせるため「教える」「させる」「認め励ます」ことを重視している。「教える」ことで「分かる」を実感させ、主体的に取り組む力を生む。主体的に「させる」ことで「伝え合う」段階へステップアップし対話的に関わり合うことができる。ふり返りに「Passport」を活用し自己のふり返りを行わせる。この過程やふり返りに「認め励ます」ことで「自信をもって行動する力」を育成することができよう指導過程の改善を図る。しかし、当校は若手職員が多いので、より充実した授業となるよう市学習指導センター指導主事に依頼し、公開授業や学校訪問等を通して、担任が研修できる機会を設ける。

3 取組の成果と残された課題

(1) 取組の成果

＜市教委作成の指導計画の活用＞

市教育委員会が中心となり指導計画等を作成したことは大変ありがたい。市内全ての学校で、同一歩調で行える充実した外国語活動・外国語の環境が整えられている。それは、教職員の多忙化解消を図る手立てともなっている。

＜担任とALTとで行う外国語活動・外国語の授業実践＞

「教える」「させる」「認め励ます」を通して、「分かる」から「伝え合う」への段階を踏んだ授業となり、児童の自信に繋がっている。また、全ての授業でTT指導ができるので、児童への指導効果が高く、充実した授業となっている。

(2) 残された課題とまとめ

＜本格実施でのALTの配置＞

本格実施では、時数が「外国語活動」で15単位時間、「外国語」で20単位時間増となる。その全ての授業でTT指導ができると児童への指導効果が高く、充実した指導となる。本格実施後もTT指導ができる環境整備を市校長会を通して要望していく。

＜研修の充実＞

ALTのサポートがなくても外国語活動・外国語の授業を進めることができるよう、市学習指導センター指導主事の指導を仰ぎ、校内研修の充実を図っていく。さらに、市学習指導センターの研修にも盛り込んでいけるよう働きかけていく。

＜まとめ＞

これからの情報化社会を児童は生き抜いていかなければならない。そのために今、何事も前向きに考え自信をもって行動する力を身に付ける必要がある。また、その力を生かし他者と進んで関わることで、そのために必要な表現力やコミュニケーション能力を身に付けさせなければならない。そして、違いを認め合える人権意識を高めることも必要である。これらの能力を身に付けさせるためにも、校長として外国語活動・外国語の充実を図り推進していく。